

熱く 羽ばたけ 大潟っ子

白鳥



校長通信
大潟村立大潟中学校
令和2年6月26日(金) 発行
NO.3 文責:安田 和人



特別の教科「道徳」

中学校では、昨年度から道徳の時間が教科化され、文章記述による評価も行われています。発達段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、「考える道徳」「議論する道徳」を担当の先生が中心となり、毎週1時間授業を実施しています。本校では、担任以外の先生が道徳を行う「ローテーション道徳」が行われており、そんな中、6月18日(木)の5校時に、3年A組で道徳の授業をやらせていただきました。



□「足袋の季節」

この話は著者である中江良夫さんが、1920年代の北海道小樽での出来事を40年後に振り返って書いた随筆です。かつて私が学級担任のときにもこの題材で授業をしたことがあるので、保護者の方々も覚えている人が多いかと思えます。貧しく苦しい生活の中、足袋を買う金欲しさに、貧しいおばあさんから釣り銭をごまかしてしまった「私」の苦悩が描かれています。

授業をするに当たり、今まで私と一度も話をする機会が無い人にとっては、話しづらいと思っていたので、6月8日(月)から事前に校長室で一人10分間の雑談を行いました。聞きたいことや日常生活、趣味など、お互いに少しは理解し合えたのではないかと思います。とても楽しい時間を過ごすことができました。

今回の授業のテーマは、人がもつ弱さや醜さを見つめ、それを乗り越えようとする力について考えようというものでした。みんな真剣に考えてくれて、たくさん意見を出してくれました。議論する道徳とはならなかったのですが、不慣れな私の道徳の授業に協力してくれた3年生一人一人に本当に感謝しています。どうもありがとう。



□あなたが「自分に恥じない生き方」「誇りある生き方」をするために大切にしたいことは？

授業の中では、時間がなくなり上記の最後の質問の答えがあまり発表できなかったのですが、この場で少し紹介します。(一部抜粋)

- ・できるだけ嘘はつかないようにしたい。
- ・正直な気持ち、素直な気持ちをもって生きていくようにしたい。
- ・毎日いろんな人に感謝して生きたい。誰に対しても優しくはできないかもしれないが、できるだけ優しくできるようにしたい。
- ・もし私が人に嘘をついたり、悪い行いをしたりしても、その分、良い行いをするようにしたいと思いました。
- ・間違えても深く認められるくらい寛大な心と強い精神を育てていきたい。

□保護者の方々へ

中学生の時期は、人生に関わるいろいろな問題についての関心が高くなり、人生の意味をどこに求め、いかによりよく生きるかという人間としての生き方を主体的に模索し始める時期です。人間にとっての最大の関心は、人生の意味をどこに求め、いかによりよく生きるかということにあり、道徳はこのことに直接関わるものです。どうか、普段の道徳の授業でどんなことをやったのかなど、ご家庭で話し合っただけだと幸いです。

「中学生のメンタルヘルス」(仮題)講演会

7月31日(金)に、秋田大学大学院医学系研究科 保健学専攻の准教授である佐々木久長先生をお迎えして、標記講演会を中学校で開催することにしました。

詳細につきましては、後日学校からお知らせしますが、保護者の方も参加できるように考えています。5/30付けの魁新聞に、佐々木先生が「子どものストレスと向き合う」というタイトルで記事を掲載されていたのでご存知の方もいらっしゃると思われます。ストレスへの向き合い方や解消の仕方、また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う、誹謗・中傷・いじめ等についての対処についてのお話も依頼しています。お時間が合えば是非聴きにいらしてください。



口・耳・目・手足・心の使い方

皆さんは「口・耳・目・手足・心」を誰のために、また、何のために使っているでしょうか。腰塚勇人(こしづか はやと)さんという元中学校の先生が立てられた「五つの誓い」で、「口・耳・目・手足・心」をどのように使おうと決意されたのかを紹介します。

腰塚さんは、2002年の3月1日、スキーの事故で首の骨を折る大怪我をしました。幸い手術により一命は取りとめますが、一週間経っても首から下はまったく動かなかったそうです。担当の医師から「一生寝たきりか、車椅子の生活になるでしょう」と宣告された腰塚さんは、毎日死ぬことばかり考えていたそうです。

そんな腰塚さんに生きる勇気と元気を与えてくれたのは、周りの方々の温かい応援と励ましでした。「何があってもずっと一緒にいるから」と言ってくれる奥さん、「代わるものなら代わってあげたい」と言うお母さん、「先生、待っているから」と回復を信じ激励してくれる仲間と生徒たちがいました。腰塚さんはこうした方々の深い愛情に包まれながら、「これからは、いつも笑顔で、どんなことにも『ありがとう』を言おう」と誓います。その後、厳しく困難なりハビリに耐えながら、一生懸命取り組んだ結果、ついに四ヶ月後、中学3年生の担任として現場復帰を果たすまでに回復しました。主治医の先生からはからは「首の骨を折って、ここまで回復した人は、治療した中では、腰塚さんだけだ」と言われるほどの「奇跡の復活」を遂げました。

現場復帰に当たって、腰塚さんは次の「五つの誓い」を立てました。

- ・口は人を励ます言葉や感謝の言葉を使うために使おう
- ・耳は人の言葉を最後まで聞いてあげるために使おう
- ・目は人の良いところを見るために使おう
- ・手足は人を助けるために使おう
- ・心は人の痛みが分かるために使おう

腰塚さんは現在、学校の先生をご退職し、「命の授業」の講演家として、自らの経験を元に、「命の尊さ」「生きていることの素晴らしさ」などを、全国の小学校、中学校、高校、そして一般の方々に伝える活動をしているそうです。

皆さんが、この「口・耳・目・手足・心」の使い方を参考にして、周りの人たちへ思いやりの心をもって行動してくれる大中学生になってほしいと願っています。

※【引用】『命の授業』腰塚勇人オフィシャルサイト <https://inochi-jyugyo.com/>